

施設利用状況

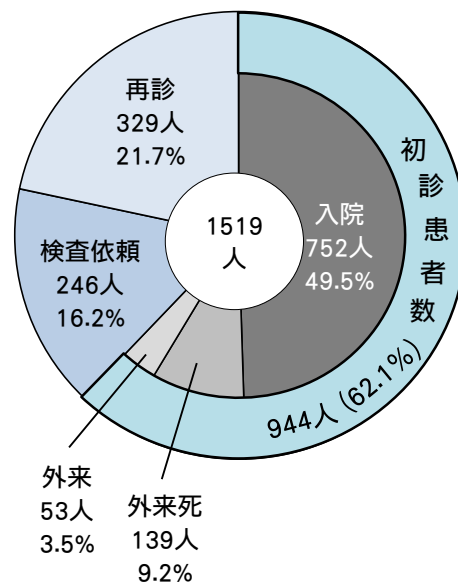
2017年の全来院患者数は1,519人であり、昨年に比べて216人減少した。再診329人と検査依頼246人を除いた三次救急初診患者数は944人（62.1%）であり、昨年に比べて217人減少した【図-1】。

全来院患者数のうち入院患者は約50.0%を占め、その内訳は、疾病が484人（64.4%）を占め、交通外傷が101人（13.4%）、その他の167人（22.2%）は自傷や労災等であった【図-2】。

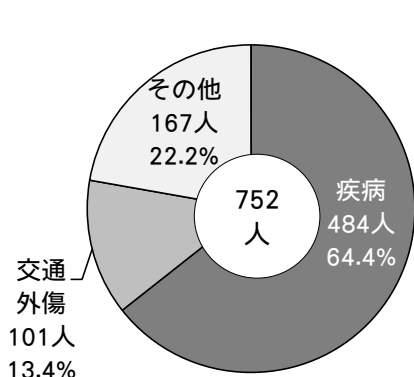
入院患者の転帰については約半数が軽快退院したものの約1割が死亡退院となり、298人（39.6%）が他医療機関へ転院した【図-3】。

一方、外来患者（三次救急初診外来へ搬入されたが帰宅又は転送した患者と外来死症例）の内訳は、疾病が141人（73.4%）、交通外傷が9人（4.7%）、その他の42人（21.9%）は自傷や労災等であった【図-4】

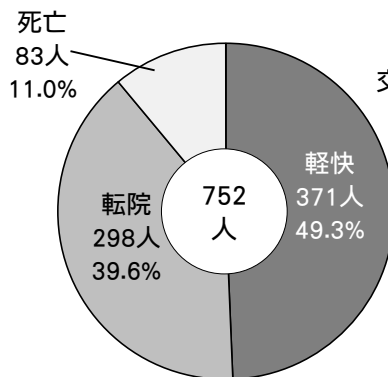
外来患者の転帰については、帰宅が41人（21.3%）、他医療機関へ転送した患者が12人（6.3%）であり、外来死症例139人（72.4%）のうち116人は検視となった。



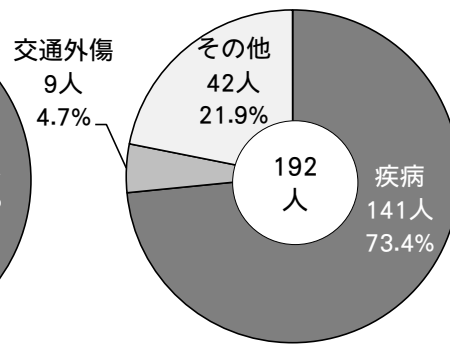
【図-1】 来院患者の内訳



【図-2】 入院患者の内



【図-3】 入院患者の転帰



【図-4】 外来・外来死患者の内訳

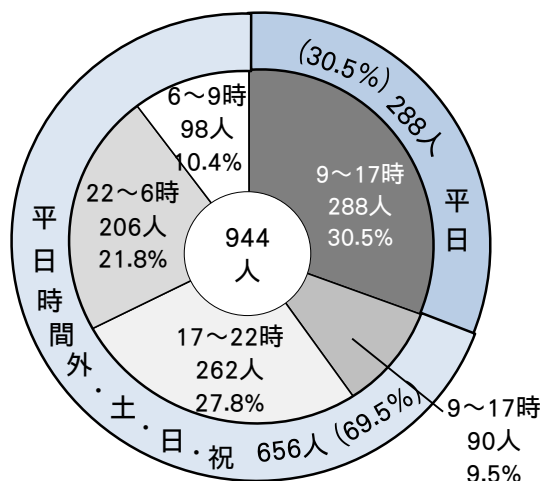
三次救急初診患者944人の来院時間帯について、平日日勤帯の総数は288人（30.5%）であった。また、平日時間外と休日の総数は656人（69.5%）であり、その多くが準夜帯（17時～22時）及び深夜帯（22時～6時）であった【図-5】。

平均在院日数は昨年と変わらず13.2日であったが、平均在院患者数は27.5人であり、昨年に比べて3.7人減少した。これにより充床率は72.2%と昨年に比べて9.8%減少したため、空床の更なる有効利用が望まれる【表-1】。

【表-1】 患者統計

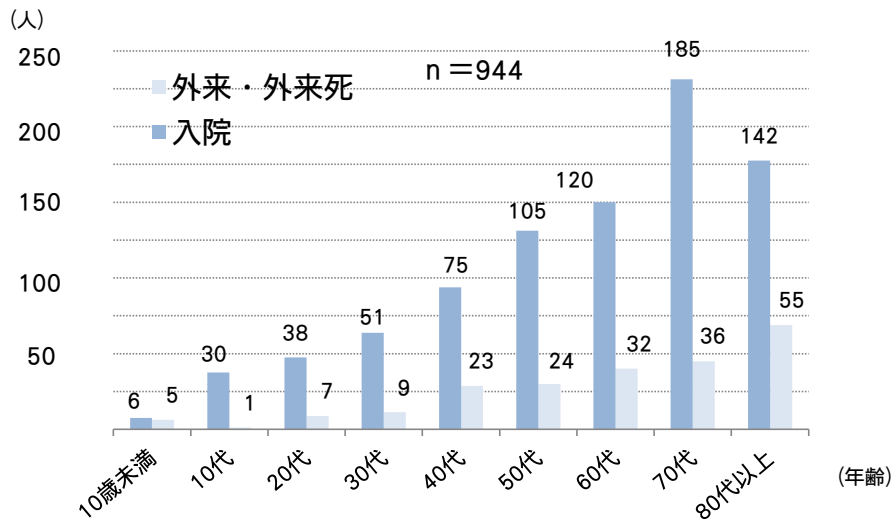
平均在院日数 [※]	13.2日
平均在院患者数	27.5日
病床稼働率日数	72.2%

※（平均在院日数＝ 在院患者延数÷{（新入院患者数+退院患者数）÷2}



【図-5】 来院患者の時間帯（再診・検査依頼除）

三次救急初診患者944人の年齢分布は、60代が152人（16.1%）、70代が221人（23.4%）、80代以上が197人（20.9%）であり、60代以上は570人となり全体の60.4%を占めたが、昨年と比べると196人減少した。80代以上では66.8%は入院したが、残りのほとんどは外来死症例であった【図-6】。昨年同様、高齢化社会を反映して、入院・外来含めて高齢患者の搬送が目立っている。

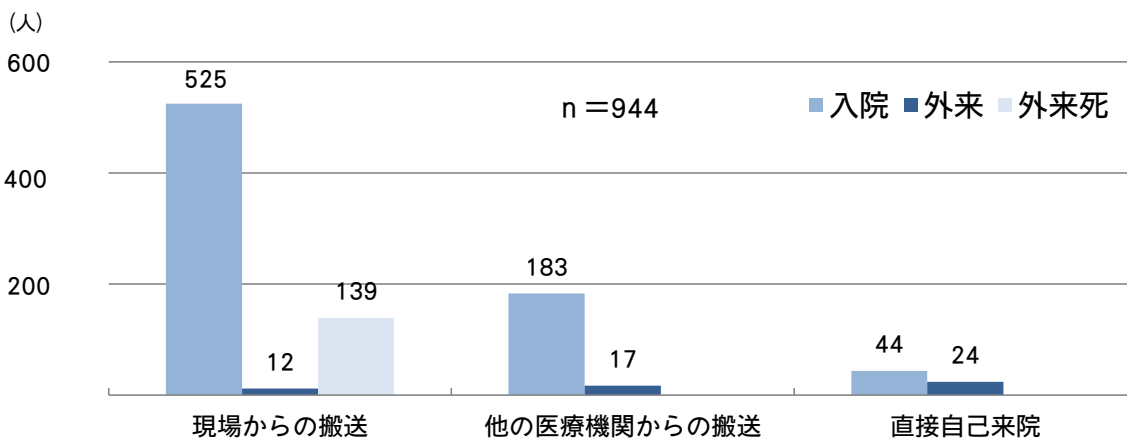


【図-6】来院患者の年齢（再診・検査依頼除く）

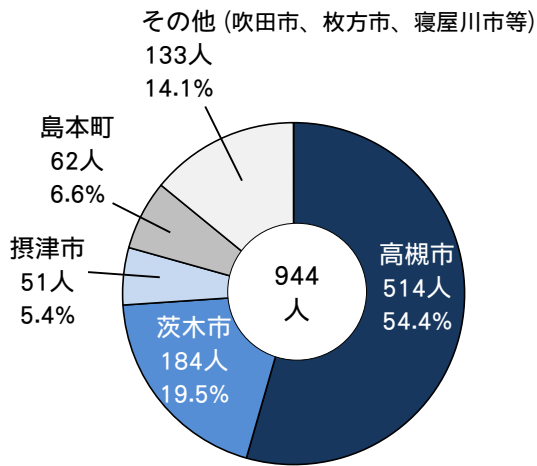
三次救急初診患者944人の搬入経路については、主として救急隊搬入及び他の医療機関からの搬入が876人で約9割を占めたが、昨年と比べると205人減少した。救急隊からの直接搬入676人のうち、外来死が139人（20.6%）と多く占めていた【図-7】。

三次救急初診患者944人の搬入元地域のうち、医療圏である三島地域（高槻市、茨木市、摂津市、島本町）は811人で約8割を占めたが、昨年と比べると175人減少した【図-8】。

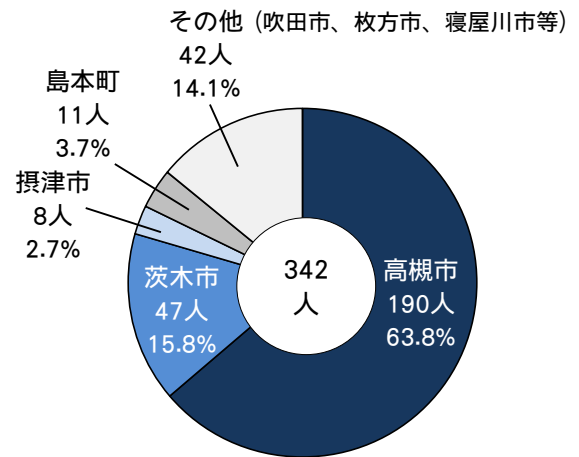
入院患者の転院先地域は、三島地域内への転院は256人であり約8割を占めたが、昨年と比べると27人減少した。三島地域以外の転院は家族の希望や住居が遠方である場合であり、42人で約2割を占め、昨年と比べて17人減少した【図-9】。



【図-7】来院患者の搬入経路及び転帰（再診・検査依頼除く）



【図-8】搬入元地域（再診・検査依頼除く）



【図-9】転院先地域（軽快退院・死亡退院除く）

